



### 「4者面談で味方をしてくれたひと言！」

高校2年夏休み前、担任の先生2人と保護者との4者面談で。それまで県外の大学が第一志望だった私ですが、母は猛反対。家から通える地元の大学でと、聞く耳をもちませんでした。4者面談のとき事前に説得することができず、面談が始まると同時に、先生2人に「県外の大学は言語道断。家から通える大学で」と猛烈にまくらしてました。私も事前に釘を刺されていたので反論もできず、そんな2人の様子に先生たちも少し驚いていました。でも、一通り母の話が終わると、女性の担任の先生が「そんなに〇〇大学は駄目でしょうか。お母さんが考えておられるよりも内容も環境も良いところですよ。まだ実際には見られていないのでは？ この夏、オープンキャンパスもあるので、お母さんもぜひ一緒に行って見て、それから考えたらどうですか？」と言ってくれました。その言葉は、母にとっては予想外で驚きだったようで、その後、日が経つにつれて少しずつ私の話にも耳を傾けてくれるように。一緒にオープンキャンパスにも行って考えてくれるようになりました。「そんなに〇〇大学は駄目ですか…」のひと言が、私の本気でやりたいことを、やりたい場所です。私の進路選択への道を切り開いてくれました。  
(岡山県・4年制大学3年生・Nさん)

イラスト/藤井昌子

### 「得意」に気付いて自信回復！

数学が苦手特に計算ミスが多く点数も伸び悩み。少人数制の補講でも、いつも自分が一番点数が低く、「受験、大丈夫だろうか」と不安ばかりでした。でもあるとき先生が、「この図形問題は一人だけできた。みんなが正解する問題は計算ミスするけど、計算が不要な図形問題は得意だね」と笑いながら誉めてくれました。「数学が苦手だとばかり思っていた自分に得意があるんだ！」って気付きました。おかげで得意・不得意を意識しながら対策を立て、数学でも点数を取れるようになり、受験も成功。何より、「仮に結果がダメでも、プロセスの中に埋もれた得意な何かがあるはず。そこを伸ばそう」と、自分にも周囲の人にも思えるようになったのが、今の仕事に生きています。  
(兵庫県出身・人事・Oさん・25歳)



### 自分の世界を広げてくれた！

子どもの頃から自分で遊びを作り出して、みんなに喜んでもらうことが好き。高校時代も、文化祭の運営には人一倍張り切るタイプでした。そんな自分が「将来何をしたい？」と問われても、どんな仕事がいいのかまったく思い浮かばず悩んでいました。悩みに悩んで担任の先生に相談に行きました。「自分はこれといった仕事がない。一つだけわかるのは、何かを人に勧めたり、楽しくさせることはずっと好きだった」というような話を、黙って聞いてくれました。そして最後に、「それ、マーケティングっていうんだぞ。確かにあなたは向いているかも」とひと言。すぐ図書館に行って、マーケティングについて調べました。まさに自分が求めていた世界！自分の好きなことが言葉になっていた興奮と、それを正しく理解して世界を広げてくれた先生の言葉に本当に感謝しました。  
(滋賀県出身・マーケティング・Hさん・36歳)



今だから言える

あのときのひと言、一押し。ありがとう！

卒業シーズンも近づいてきました。そこで、社会人や大学生に、今だから言える「進路にまつわる、先生あのときはありがとう」を聞いてみました。

取材文/清水由佳ライター・キャリアカウンセラー

### 日頃をよく知る 担任だからこそ、世界を広げてくれる！

情報があふれる時代にながらも、狭い視野でしか物事を考えられていない生徒は少なくない。進路のこととなると特に、「わからない」と立ち止まる人が多いことだろう。そんなとき、上記コラムのHさんの先生（「それ、マーケティングっていうんだぞ」）のように、生徒の「思い」を現実につなげ、世界を広げるきっかけづくりができるのは、日頃の生徒の様子に詳しく担任の先生ならでは。

### 最後まで信じている！ その姿勢が受験を支える

今だから言える「ありがとう」で、やはり多かったのは、受験期に先生が示してくれた「信じる」姿勢。「どれだけ勉強している素振りを見せなくても、勉強しろと言われませんでした。周囲が受験に向けて猛勉強しているときも、文化祭を後悔なくやらせてくれました。メリハリが大事だと言ってもらい、勉強時間はかなり少なかつたものの集中できたと感じます（東京都・営業・Bさん・26歳）」

「高校時代、スポーツ・遊び・バイトに明け暮れ、まったく勉強せず、ありえない偏差値で手のかかる生徒と言われていた私。高校3年の秋になってやっと受験勉強を始めたものの、当然模試では第1志望校D判定。そのため2度目の模試には志望校を書かなかつたら、本気で怒られてびびり。でも、それからはどんなテストでも第1志望をしっかりと書いて、少しでも判定をあげるように努力したら、最初は

### 先生の言葉は 一生の宝

また、受験期にかけられた先生の言葉が、その後の人生に影響を与え、励みとなる人も多い。「理系は国立を目指すべき」という風潮が強かった中、私立を第1志望にしたいと部活の顧問に伝えたところ、「自分らしくいられる学校が見つかったよ。かなかなか両親に切り出せなかったが、そこで勇気をもって伝えることができた。今がある（長野県・営業・Sさん・27歳）」さらに、かけられた言葉は、今も自分を支える大切な宝となる人も。「高校3年、最後の文化祭・体育祭に全力投球していた私。文化祭ではクラスで映画製作を企画し、体育祭

D判定だった第1志望に合格できませんでした。最後まで、私より私の力を信じてくれたのは先生だったのだと、今も感謝しています（福岡県・企画・Iさん・23歳）」

誰よりも自分を信じ、最後まで応援してくれることが、受験期の不安な気持ちを支えてくれるのだ。では応援団の女子リーダーを引き受けてました。「そんなにやめて、勉強は大丈夫か？」と心配もしてくれただけ、「一度も「辞めどけ」とは言わず応援してくれました。調査書には「自分のことはさておき、他人のために精一杯努力する優しい生徒である。芯は強く、自分の意見をはっきり主張でき、物事を最後までやり抜く意思の強さもある」と書かれていて、このコメントは今も私を支えてくれてます（岐阜県・企画・Dさん・36歳）」

「浪人を決意し、お世話になった学年主任の先生に報告に行った際のひと言が印象に残っています。「浪人は甘くない。1年間やり切ります、がんばります」と言う人はごまんといる。ただ、それを本当に地道に実行できる人は「握りだ。どっちになるかは、君次第だ。先生は君を信じている」。その言葉が浪人時代を支えてくれ、無事にその先生と同じ、第1志望の慶應義塾大学文学部に合格。合格報告では、「よくやった。僕の後輩になったんだ。本当に嬉しい」と。目標を掲げて有言実行できたことは、今の私にとっても大きな自信となっています（千葉県・慶應義塾大学4年・Kさん）」

### 高校生が求める理想の教師像

#### <上位5項目>

1. わかりやすい授業をする
2. 生徒とのコミュニケーションを上手にとることができる
3. クラスをまとめることができる
4. だれに対しても笑顔で明るく関わる
5. 生徒の成長に喜びを感じる

※「中・高校生が求める理想の教師像」神田外語大学調査 神田外語大学紀要第26号 2014年より

この調査は、教員養成大学において「教職実践演習」が2013年度から必修科目になった際、カリキュラム開発に生かすことを目的とした研究において実施された。高校生が求める理想の教師像の一番は、「わかりやすい授業をしてくれる先生」。しかし、その後続く4項目は、すべてが生徒との関係づくりで重要な項目といえそう。ちなみに、中学生の結果も、4位までは同じ。5位は中学生では「授業に全力で取り組む先生」だった。

高校生の主体的な進路選択を応援する先生のための進路指導・キャリア教育専門誌

## Career Guidance

キャリアガイダンス



【最新号】Vol.420 2017年12月発行

### 特集 教科の「見方・考え方」を働かせる授業とは？

【Interview】「深い学び」の鍵となる教科の特質に応じた「見方・考え方」 益川弘如（聖心女子大学 教授）

【Report】「見方・考え方」を働かせる授業

- 英語 布村奈緒子先生 両国高校（東京・都立）
- 美術 野村由香里先生 高志高校（福井・県立）
- 数学 井上芳文先生 広島大学附属高校（広島・国立）
- クロスカリキュラム 市立千葉高校（千葉・市立）ほか

【Message】生徒が自ら気づき、引き寄せた「見方・考え方」が人生を楽しむ 下町壽男先生 花巻北高校（岩手・県立）

#### 連載

- 進路指導実践を磨く！ 球磨工業高校（熊本・県立）
- 進路指導ケーススタディ 受験期が迫って、焦りや不安から浮き足立っている生徒

「キャリアガイダンス」誌は全国の高校に贈呈しています（校長、教頭、副校長、進路指導主事先生宛に郵送）

バックナンバーの記事はすべてWEBサイトで閲覧いただけます

[http://souken.shingakunet.com/career\\_g/](http://souken.shingakunet.com/career_g/)

キャリアガイダンス

検索